

J-PlatPatの改善について

—さらに使いやすくなります—

Improvements of J-PlatPat

独立行政法人工業所有権情報・研修館 知財情報部長

宮本 純

平成12年特許庁入庁、高分子等の特許審査・審判に従事の後、調整課、企画調査課、総務課広報室等を経て、平成30年7月から現職。

1 はじめに

特許情報プラットフォーム（J-Plat Pat）は、平成27年3月23日に、それまでの特許電子図書館（IPDL）による特許情報サービスを引き継ぐ形で開始したもので、既にサービス開始から4年目を迎えた。

IPDLからJ-PlatPat 変わって、インターフェースを刷新したことにより多くの方々に、概ね、使い勝手の良さが向上したとの有り難いお言葉を頂戴しているが、細かい処で改善すべきという声もいただいている。また、特許庁の業務・システム最適化計画の進行に伴ってシステム環境も変化することから、これを契機に、これまでいただいているユーザーニーズにも応えるべく、平成31年5月のリリースを目途として進めている J-PlatPat の改善について、現状と対比して以下に紹介する。

2 コンテンツの改善

1) 審査経過情報の更新タイムラグの改善

特許庁で書類が発生された翌日に審査・審判の経過情報が J-PlatPat に反映される。

〈現状〉

J-PlatPat での審査経過情報については、特許庁からの書類の発送日から約3週間後に反映されるというタイムラグがある。

2) 経過情報内容の充実

意匠・商標の審査段階の書類、特許・実用新案・意匠・商標（四法）の審判段階の拒絶理由通知、意見書、手続補正書、対応記録等の多くの経過情報が照会可能となる。なお、意匠・商標の審査・審判段階の書類は、平成31年1月以降の書類が照会できる。

〈現状〉

J-PlatPat での審査経過情報については、特許の審査段階の書類、特許・実用新案の審判段階の審決、決定等の情報のみを提供している。

3) 中国と韓国の特許・実用新案公報の検索

中国と韓国の特許・実用新案公報（中韓文献）の日本語翻訳データが J-PlatPat に移行されることになり、J-PlatPat にて、日本語により中韓文献の検索が可能となる。

〈現状〉

J-PlatPat と異なる中韓文献翻訳・検索システムにより、中韓文献の照会・検索サービスを提供している。なお、中韓文献翻訳・検索システムは、この J-PlatPat の改善により、サービス提供を終了する予定である。

4) 権利消滅後の商標の検索

権利期間が満了し延長手続がされなかった登録商標についても検索対象となる。なお、検索で抽出された商標が、権利が継続している登録商標か否かの権利の存続状況も現状と同様に表示する。

〈現状〉

権利が継続している若しくは権利抹消から約1年以内の登録商標と出願中の商標を検索対象としている。

3 機能の改善

1) 特許・実用新案・意匠・商標(四法)の横断的な検索

J-PlatPatのトップページにて、キーワード、文献番号による四法の横断的な検索が可能となる。

〈現状〉

検索を行う際には、特許・実用新案、意匠、商標のいずれかに限定する必要がある。

2) 検索結果超過時の結果表示

検索結果が3,000件を超えた際に、日付の新しいものから自動的に3,000件に絞りリスト表示を行う。

〈現状〉

検索結果が3,000件を超えた際には、結果の表示はせず、更なる絞り込みにより検索結果を3,000件以下としないと結果の表示ができない。

3) 検索結果の項目別並び替え

検索結果の文献リストの並び替え(ソート)を、リスト表示項目により可能となる。

〈現状〉

並び替え機能はない。

4) 検索結果のcsv出力

検索結果の文献リスト等のcsv形式によるリスト情報の出力が可能となる。(件数制限あり)

〈現状〉

検索結果の文献リスト等の出力機能はない。

5) 複数の文献照会

特許・実用新案、意匠の公報等¹について、文献番号の範囲指定により複数の文献の照会が一括で可能となる。

〈現状〉

特許・実用新案、意匠の文献照会は、個々の文献番号

1 公開特許公報、公表特許公報、特許公報、登録実用新案公報、意匠公報、意匠公知資料、国際意匠登録等

を入力する形式のみで可能である。

6) 検索式の再利用

HTML5の機能を利用することで、特許・実用新案を対象とする検索について検索式の再利用が可能となる。

〈現状〉

検索式の保存、再利用機能を有していない。

7) 機械翻訳

国立研究開発法人情報通信研究機構が研究開発したニューラル機械翻訳技術²を採用し、日本の公報、審査段階の書類について高精度の英訳を提供する。

〈現状〉

ルールベースの機械翻訳により英訳を提供している。

8) その他

以下の事項が可能となります。

- ① 特許・実用新案の公報に含まれる単一図面について、拡大操作・回転操作
- ② 意匠図面の複数表示(サムネイル表示)
- ③ 日本意匠分類・Dタームについて、照会やキーワードを用いた検索
- ④ 特許・実用新案、意匠、商標の公報について、住所の国名、県名での検索

4 インターフェース(画面表示)の改善

原則は、現行のJ-PlatPatの画面を踏襲するものであるが、特許・実用新案、意匠、商標の各検索画面に移行する際に(青の領域:グローバルナビゲーションから)表示される各メニューについて整理を行い、例えば、特許・実用新案に関するメニューは、現状8サービスが表示されるが、重複するものをまとめ「検索」、「文献照会」、「パテントマップガイダンス(PMGS)」の3サービスのみを表示とするなど、更なる視認性向上を図っている。

また、上記機能改善やタブレットPCやスマートフォンなどの携帯端末利用時の操作性も意識し、現行の画面

2 平成30年7月10日 国立研究開発法人情報通信研究機構 プレスリリース



図1 現 J-PlatPat の画面 (特許・実用新案メニュー選択時)



図2 次期 J-PlatPat 画面イメージ (特許・実用新案メニュー選択時)
 ※改善後のイメージは、本稿執筆の時点において、画面の詳細設計段階であり、変更の可能性がある。

表示と変わる部分もある。

5 おわりに

上記の平成 31 年 5 月にに向けた改善内容の多くは、ユーザーの方々からニーズをいただき実現したものであり、これらの改善により、これまで J-PlatPat では、できなかった部分の多くが解消されるものとなる³。今後は、我々が提供する公的サービスの役割⁴を認識し、この利便性が高まった J-PlatPat の普及に努め、特許情報を利用するユーザー層の拡充を図って参る所存であり、引き続き、皆様方のご支援・ご協力をお願いしたい。

- 3 酒井美里氏、特許調査入門 [改訂版] サーチャーが教える J-PlatPat ガイド、14~15 頁には、平成 27 年 7 月当時の J-PlatPat でできない事として、1) 大量の内容表示ができない、2) 検索結果リストの出力機能がない、3) 連続印刷の機能がない、4) 審判系の書類閲覧は収録保証対象外、5) 各公報、各データの固定の URL は非提供、6) パテントファミリーの閲覧はできない、と大きく上記 1)~6) の指摘がなされていたが、これまでと平成 31 年 5 月の改善にて、3) 連続印刷機能以外の事項は、対応可能となった。
- 4 平成 28 年 5 月 産業構造審議会知的財産分科会情報普及活用小委員会報告書「特許情報のさらなる活用に向けて」



1 特許情報施策および事業

